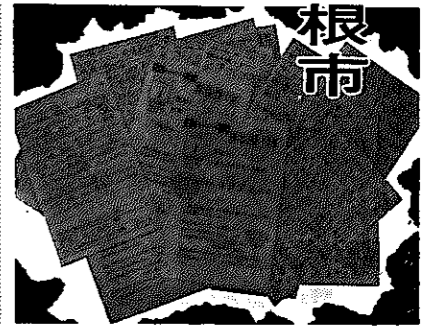


住みよい白根市づくりは、皆さんと一体になって、まちづくりに取り組むことにあります。そこで市は、新年度から常に対話の市政を推進すべき、作業を進めています。

みんなで築く白根市



市政はみんなのもの

市政は市民のためのものであり、皆さんの意志にそったものでなければなりません。それにはまず、お互いに話し合うことが必要です。市の仕事も、市政にたずさわ

白根市に住むみんなの責任として、市民みんなが、よりよい生活ができるようにしなければなりません。そこで、市は、皆さんの意見を聞くためのいろいろな対話の方法を検討中です。

別市政懇談会 □ハガキで市長と話そう □市政モニター会議 □施設めぐり □小・中学生と市長の対話 □市政アンケート などとなっています。どんな小さなことでも、皆さんとひざをつきあわせて、あすの白根市をどうしたらよいか、お互いに啓発し、解決策を見い出したものです。

話そうなどで、市民の皆さんの積極的参加が大切かと思われます。

意思の疎通、より深く

あったけど、何もなかった？ その理由では、効果がないと思った53.5%、当然市が知っていると思った23.9%となっており、市と市民との対話や意思の疎通を活発にすべきなどの点が考えさせられるようです。

その反面、めんどうだから11.9%もあることは、みんなで考え直す必要があるのではないのでしょうか。

インフレと不況は、地方自治体にも容赦なく打ち寄せています。このきびしい状況の中で『住みよいまち』から『住みよくなるまち』へ脱皮するには、市民と行政の間に暖かい信頼関係を育て、ともに力を合わせる事が打開策かも知れません。生まれ育ち、住みつく自分たちのまちですから……。

ちょっとひとこと

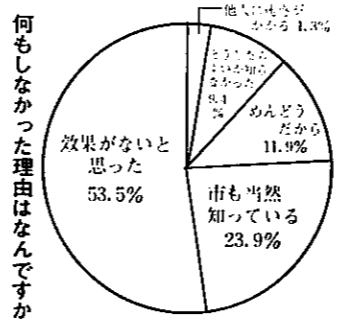
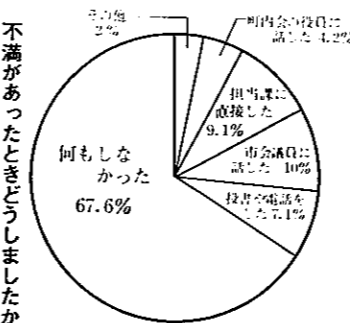
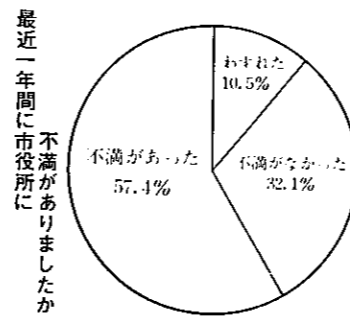
新潟日報 遠藤勝重さん



「ガラス張りの行政」とはよくいわれることですが、これほどよりもなおさず住民参加の行政のこともあると思う。



の市政 いに参加を



「住民がいかに行政に参画していくか」と表裏をなすが、その点では白根市には広聴会や、こだまシリーズなど「参画の場」は多い。ただしこういう活動が市民の中に広く浸透しているかは調査結果をみるとまだ疑問が残る。情報を流す側は市民が今何を望んでいるか、またそれを受ける市民も「一番望みたいこと、一番いいこと」を相互にキャッチできる行政であり、市民でありたい。



たかめよう対話 主役はあなたも

です。このことから、市民と市政のかけ橋ともいえる『広報しろね』の役割りが大きいことがいえます。市民の要望などが複雑、多岐になるほど、市民と市政を結ぶパイプライン『広報紙』の役割りが重要となり、一層紙面の充実を期して行きます。

また、『広報しろね』が、行政の情報・理解を深める場、市民の意向を十分反映する広場として育つよう努力をしなければなりません。

どの程度、読みますか？ 程度の差はあると思いますが「くわしく読む」「必要などこだけ」「ざっと見る」を合わせると、98.6%の人が広報紙に目を通していることがわかります。

それだけに、ますます愛され、読まれる広報紙となるため、紙面づくりの工夫など、さらに研究、開発をいたします。

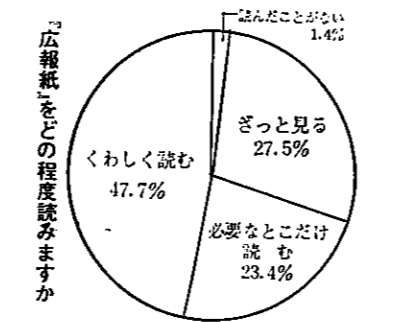
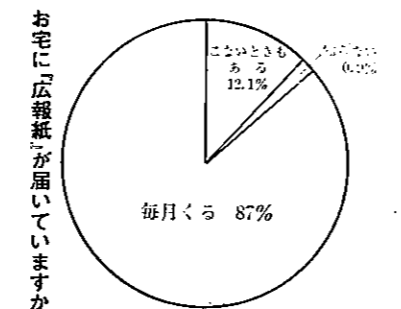
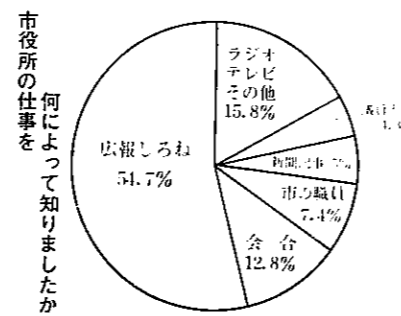
そして、行政と市民が一体となって生まれる『広報紙』こそ、より多くの皆さんから読んでいただけるものへのステップになるのでは……

また、広報紙がご家庭に届けられたら、是非一度ページを開いてみてください。皆さんのご協力をお願いします。

不満に対し積極的な発言を

市民の意見、要望を反映する市民の苦情の窓口、についてみましょう。

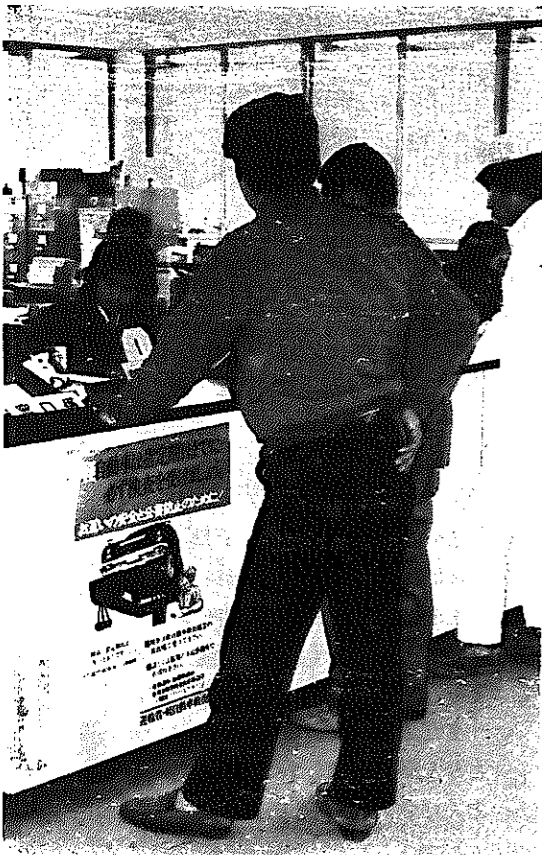
最近1年間に、市役所に投書でも出した、不満がありましたか？



不満があったが57.4%で、その不満に対し、何もなかった67.6%、市会議員に話した10%、投書や電話をした7.1%となっています。

これらを見ると、市民の皆さんが気軽に意見を持ちこめる場の設置を考える必要があるようです。

一方、広聴活動として推進されている市長との対話や市長とハガキで



皆さんの声を、総合計画や市政の具体的な施策に役立てるために行われた市民意識調査の結果を、みんなで考えてみたいと思います。先月号の「住みよさ」につづき、今回は「行政について」取り上げました。

市民と市政の「広報しろね」パイプ役

まず6つのグラフを、よくご覧ください。グラフはどれも『市役所とあなたのつながり』を、調査した結果を示したものです。

市役所の仕事は、何によって知りますか？

毎月、市から届けられる『広報しろね』でと答えた人が54.7%でトッ

アンケートのあらまし
調査年月 51年10月7~18日
調査対象 市内居住の満20歳以上の1,155人。無作為抽出。
回収数 420人(率=36.4%)
調査方法 郵送。